

高知くらしの護身術

390

ネット上の広告

多様化しトラブルも

(2016年4月5日掲載原稿)

多様化するインターネット上の広告によって、さまざまなトラブルが発生しています。

①「【パソコンのセキュリティに問題があります】と警告表示が出たため、画面の指示通りにソフトをインストールして、代金をクレジットカードで支払った。最近更新通知のメールが届いたが、効果がないため解約したい」

基本ソフト（OS）やセキュリティーソフト会社からの警告表示に似せた紛らわしい「広告」が存在します。必要な対処を促す表示なのか広告なのか確認し、不要なソフトの広告はクリックしないようにしましょう。

②「SNSに表示された広告を見て、化粧品などのお試し商品を購入したはずだったが、定期購入になっていた」

SNSに表示される広告は、SNSに登録された利用者のプロフィールや趣味、検索履歴などの情報と連動した「ターゲティング広告」と呼ばれるものが増えていきます。利用者の興味がある広告が表示されるため、消費者トラブルも多く発生しています。

③「『消費生活センター』と検索して、広告欄に出ていた消費生活センターとは関係のない事業者に相談してしまい、料金を請求された」

インターネット検索は、検索結果に連動した「リスティング広告」と呼ばれる広告が表示されることがあります。通常の実験結果との違いに気付きにくく、注意が必要です。

インターネット上には、広告収入があることで、一般向けには無料で提供されているサービスがあることを認識し、適切に付き合う必要があります。

ネット広告によるトラブルが身近に起きていることを意識しましょう。